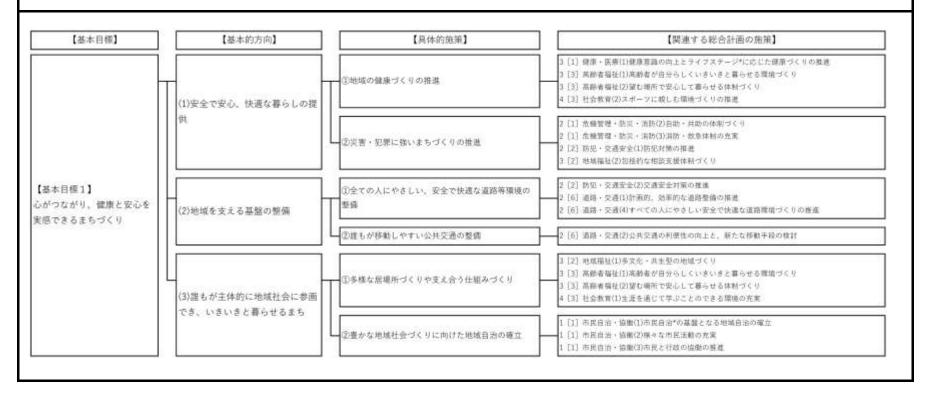
# 基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり

- |◆ あらゆる世代の人の生活の質(QOL※)の向上と、健康寿命の延伸が図れるように、地域活動や就労、スポーツなどを通じた生きがいづくりや、介護・疾病予防 活動等のエイジフレンドリーシティ※の取組などを推進します。
- ◆ すべての人にやさしい安全で快適な道路環境やバリアフリー※化などによる交通環境の整備を推進します。
- ◆ 地域の特性に応じた公共交通や新たな移動手段の確保により、誰もが移動しやすい環境づくりに取り組みます。
- |◆ 「支え手」「受け手」という関係性を越えて、誰もが主体的に参画できる地域社会づくりを推進します。
- ◆ 社会的な孤立を防ぎ、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるように、関係機関における制度·分野の横断的な連携を強化し、一生涯を支える切れ目のない支援 体制づくりに取り組みます。
- ◆ 災害や感染症の蔓(まん)延に備え、自助・共助の体制づくりの支援に取り組みます。



#### <指標の達成状況>

| NO. | 指標  | 単位 | 基準値                  | R3   | R4                   | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当次長                    |
|-----|---|----|----------------------|------|----------------------|-------|----|----|---------------|---|-------------------------|
| 1   | 健康寿命  | 歳  | 男性:81.16<br>女性:84.51 | -    | 男性:81.53<br>女性:85.24 | -     |    |    |               | 国勢調査に基づく県による算定となり、<br>次回はR9年度に判明する。                             | 健康福祉部次長(健康推進担当)         |
| _   | 「とても幸せ、幸せ」と回答した人の<br>割合(介護予防・日常生活圏域ニー<br>ズ調査) | %  | 67.0                 | -    | -                    | 66.1% |    |    | 基準値以上         | 目標をやや下回った。  | 健康福祉部次長(安心ネットワーク担当)     |
| 3   | 「引き続き宝塚市内に住み続けた<br>い」と回答した市民の割合(市民ア<br>ンケート)  | %  | 77.1                 | 73.4 | -                    | 85.1% |    |    | 79.8%以上       | 市民アンケート調査の結果目標を上回る数値となった。一方で転出超過傾向は変わらず、若年層の転出抑制の施策を考えていく必要がある。 | 企画経営部次<br>長(政策推進担<br>当) |

| < K | PIの達成状況>                                       |      |         |        |        |        |    |    |               |   |                            |
|-----|--|------|---------|--------|--------|--------|----|----|---------------|---|----------------------------|
|     | 基本的方向(1) 安全で安心、快<br>具体的施策① 地域の健康づ              |      |         |        |        |        |    |    |               |   | 和业中                        |
| NO. | 共体的他東① 地域の健康 )<br>KPI                          | 単位   | 基準値     | R3     | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当室                        |
| 1   | 「意識的に健康づくりに取り組んでいる」と回答した市民の割合(市民アンケート)         |      | 52.5    | 53.8   | -      | 58.7   |    |    | 57.5%以上       | 検診や予防接種、食育推進等の保健<br>事業やコロナ禍を経て日々の健康づく<br>りへの意識が高まったと考える。  | 健康福祉部次<br>長(健康推進担<br>当)    |
| 2   | 国民健康保険特定健康診査受<br>診率                            | %    | 37.4    | 36.3   | 37.4   | 37.5   |    |    | 60.0          | 目標値には達していないが、コロナ禍前の生活に戻ってきたことや、受診勧奨の効果により前年度から0.1ポイントの増となった。  | 健康福祉部次<br>長(健康推進担<br>当)    |
| 3   | 65歳以上の要支援の認定率                                  | %    | 7.0     | 6.8    | 7.0    | 7.3    |    |    | 7.8%以下        | 目標は達成したが、認定率は年々上昇傾向にある。   | 健康福祉部次長(安心ネットワーク担当)        |
| 4   | 「週1回以上スポーツに取り組んでいる」と回答した市民の割合(市民アンケート)         |      | 35.4    | 35.7   | (調査なし) | 38.0   |    |    | 38.0          | スポーツに気軽に取り組める環境整備<br>及び啓発を行った結果、目標の達成に<br>つながった。  | 社会教育部次<br>長(社会教育担<br>当)    |
|     | 具体的施策② 災害・犯罪に                                  | 強いまち | らづくりの推進 |        |        |        |    |    |               |   | 担业产                        |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3     | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当室                        |
| 1   | 災害時要援護者避難支援組織<br>数                             | 組織   | 48      | 50     | 52     | 55     |    |    | 基準値以上         | 目標値を達成した。主に出前講座を通<br>して組織の意義を周知している。  | 健康福祉部次長(安心ネットワーク担当)        |
| 2   | 「日頃から災害に対する備えをして<br>いる」と回答した市民の割合(市民<br>アンケート) |      | 48.9    | 50.0   | -      | 47.7   |    |    | 50.0          | コロナ禍において、出前講座など十分<br>な啓発ができず、目標を下回ったと考<br>えられる。   | 都市安全部次<br>長(危機管理担<br>当)    |
| 3   | 安心メール、ひょうご防災ネット<br>アプリの登録者数                    | Д    | 27,869  | 38,799 | 41,376 | 44,004 |    |    | 33,000        | 新規登録の促進を行った結果、順調に<br>登録者が増加し、目標値の達成につな<br>がった。  | 都市安全部次<br>長(危機管理担<br>当)    |
| 4   | 犯罪発生件数   | 件    | 856     | 756    | 819    | 896    |    |    | 814           | 新型コロナウイルス感染症の行動制限<br>解除により、人の動きが活発化し、基準<br>値を超える件数になった。件数増加は、<br>宝塚警察署管内での特殊詐欺発生件<br>数47件が一因と考えられる。 | 都市安全部次<br>長(安全まちづ<br>くり担当) |

|     | 基本的方向(2) 地域を支える基                       | 盤の整          | 備              |             |            |  |    |    |                |  |                                  |
|-----|--|--------------|----------------|-------------|------------|--|----|----|----------------|--|----------------------------------|
|     | 具体的施策① すべての人に                          | やさしい         | 、、安全で快適        | な道路等環境の     | の整備        |  |    |    |                |  | 担当室                              |
| NO. | KPI                                    | 単位           | 基準値            | R3          | R4         | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   |                                  |
| 1   | 「道路環境の整備ができている」と<br>回答した市民の割合(市民アンケート) | %            | 新規             | 9.8         | -          | 11.7   |    |    |                | 具体的な理由は判然としないが、限られた予算の中で地道に道路改良や維持補修を行ってきたことが、評価されたと考える。           | 都市安全部次<br>長(道路·公共<br>交通担当)       |
| 2   | 都市計画道路整備率                              | %            | 72.8           | 73.0        | 73.2       | 73.4   |    |    | 74.1           | テスパーン・こく「別れるのはい」で「正」タンパー。  | 都市安全部次<br>長(道路·公共<br>交通担当)       |
| 3   | 交通事故(人身事故)発生件数                         | 件            | 416            | 434         | 351        | 360  |    |    | 396            | 新型コロナウイルス感染症の行動制限<br>解除により、昨年度よりは増加したが、<br>基準値以下の件数は達成した。          | 都市安全部次<br>長(安全まちづ<br>くり担当)       |
| 4   | 交通安全教室、講習会、啓発活<br>動回数                  | 回            | 155            | 78          | 90         | 108  |    |    | 161            | 新型コロナウイルス感染症の行動制限解除により、開催回数が増加した。また、夏期休暇中の地域児童育成会に積極的に実施した。        | 都市安全部次<br>長(安全まちづ<br>くり担当)       |
|     | 具体的施策② 誰もが移動し                          | やすいか         | 公共交通の整備        | Ħ           |            |  |    |    |                |  | le met                           |
| NO. | KPI                                    | 単位           | 基準値            | R3          | R4         | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                              |
| 1   | 公共交通の利用者数                              | 人            | 258,582        | 205,165     | 213,298    | 220,563.0                                    |    |    |                | 広報資料等を地域に配布、小学校に対  | 都市安全部次<br>長(道路·公共<br>交通担当)       |
| 2   | ノンステップバスの導入率                           | %            | 71.6           | 71.6        | 83.1       | 81.0   |    |    | 88.1           | 新たなノンステップバスの導入がなく、<br>事業者の営業所間での車両の移動に<br>伴って、目標を下回った。             | 都市安全部次<br>長(道路·公共<br>交通担当)       |
|     | 基本的方向(3) 誰もが主体的に                       | 地域社          | :会に参画でき、       | 、いきいきと暮ら    | せるまち       |  |    |    |                |  |                                  |
|     | 具体的施策① 多様な居場所                          | づくりゃ         | ち支え合う仕組        | みづくり        |            |  |    |    |                |  | 担当室                              |
| NO. | KPI                                    | 単位           | 基準値            | R3          | R4         | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   |                                  |
| 1   | 市域内のサロン等の居場所数                          | 箇所           | 197            | 202         | 205        | 199  |    |    | 基準値以上          | 目標を達成した。担い手の高齢化による廃止、新規立ち上げによる増減が<br>あった。                          | 健康福祉部次長(安心ネットワーク担当)              |
| 2   | 見守り、支え合い活動に取り組<br>む活動グループ数             | グ<br>ルー<br>プ | 155            | 174         | 175        | 191  |    |    | 基準値以上          |  | 健康福祉部次長(安心ネットワーク担当)              |
| 3   | 公民館利用者数                                | Д            | 374,895        | 227,523     | 307,743    | 325,529                                      |    |    | 390,000        | 目標値には達していないが、コロナ禍<br>前の生活に戻ってきたことから、前年と<br>比較して公民館利用者の増につながっ<br>た。 | 社会教育部次<br>長(社会教育担<br>当)          |
| 4   | 市立中央図書館、西図書館の<br>来館者数                  | Д            | 新規             | 111,432     | 530,010    | 564169                                       |    |    | 基準値以上          |  | 社会教育部次<br>長(社会教育担<br>当)          |
|     |  |              |                |             |            | <u>.                                    </u> |    | -  | -              |  |                                  |
|     | 具体的施策② 豊かな地域社                          | 会づく          | リに向けた地域        | 自治の確立       |            |  |    |    |                |  | #ELVICES                         |
| NO. |  | 会づく!         | リに向けた地域<br>基準値 | 自治の確立<br>R3 | R4         | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                              |
|     |  | 単位           |                |             | R4<br>77.2 | R5<br>84                                     | R6 | R7 | (R7年度)<br>80.0 | 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことを受け、徐々に活動が活発になってきており、前年度実                | 担当室<br>市民交流部次<br>長(きずなづくり<br>担当) |

<評価>

## 自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)

# 【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果】

・新型コロナウイルス感染症による外出控えが減り、人流が戻りつつあったことが要因で公共交通利用者が増えているがコロナ前の水準に戻ってはいない。また、公共交通の利用促進として、従前から取り組んでいるバス広報資料や交通事業者作成の広報資料を地域に配布することや小学校に対するモビリティマネジメント学習を行ったことも増加に繋がったと考える。併せて、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用し、燃料価格高騰の影響を受けている交通事業者に対して支援を実施した。

・介護予防の推進のため、いきいき百歳体操の普及を推進するともに、1人でも気軽にできる運動としてウォーキングの効果を周知し、継続の動機付けとなるよう記録用紙を提示した人に賞状を差し上げ、フレイル予防の啓発に努め、意識的に健康づくりに取り組んでいる市民が増えた。

・市域内のサロン等の居場所は減っているが、多様な居場所・拠点づくりでは、市内の事業所や公共施設等を「涼める居場所」として開放する「クールシェアスポット」を実施、77事業所が参加し、熱中症対策だけでなく居合わせた人同士や事業所スタッフとのゆるやかなつながりが生まれる居場所にもなった。また、広報誌でセルフヘルプグループの特集記事を掲載し、病気や不登校など困難を抱える当事者同士が出会い、思いや課題を語り合い支え合う様々な活動があることを紹介し、多様な居場所づくりや支えあう仕組みづくりを推進した。

・JR武田尾駅のバリアフリー化に向け、R5年度にJR武田尾駅周辺地区バリアフリー基本構想を策定するとともに、概略設計等を行い、駅周辺のバリアフリーを含めR12年度末完成に向けた取り組みを行った。

# 【今後の課題と改善策】

地域特性に応じた新たな公共交通サービスの検討を引き続き行うとともに、令和6年度に売布地域でAIオンデマンド交通の実証実験、南部地域の山本地区、安倉地区において市立病院等への移動手段導入のための実証実験を行い、地域に合った輸送手段であるかを見極めていく。 今後も引き続きKPIを見据えた施策を継続、展開し、目指すべきまちの姿に近づけるべく柔軟に取り組む。

安心ネット

ワーク推進

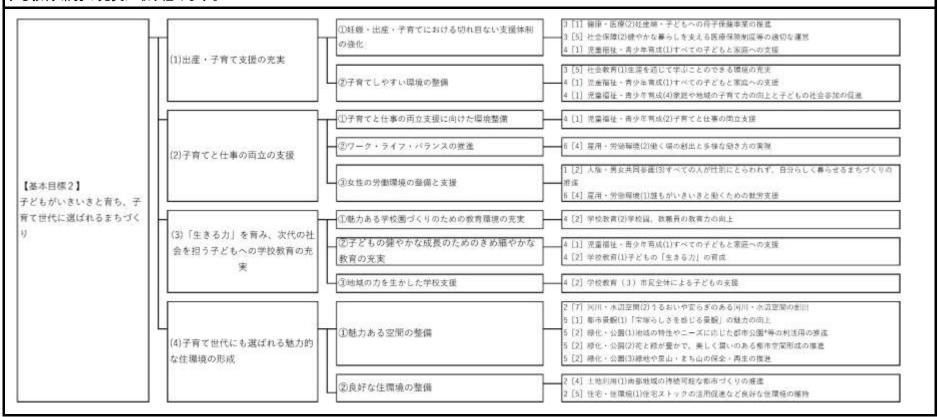
健康福祉部

#### 室、建設室 東、南部地域の山

# 外部評価

# 基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり

- ◆ 未来を担う子どもがたくさんの遊びや学びを経験し、将来の夢や希望を持って、心豊かにいきいきと育つ環境づくりを子どもの権利を尊重する視点に立って推進します。
- ◆ 地域社会全体の子育て意識を向上させ、安心して子どもを産み、楽しく子育てできる環境づくりを推進するとともに、配慮が必要な子どもと家庭への支援や貧困対策、仕事の両立支援などに妊娠期から切れ目なく取り組みます。
- ◆ 子育て世代にも選ばれる魅力的な住環境の形成に取り組みます。
- ◆ 家庭や地域と連携しながら、子どもの「生きる力」を育成するとともに、学校園、教職員の教育力の向上を図り、各学校園の特色ある教育やICT※環境をはじめと する教育環境の充実に取り組みます。



#### <指標の達成状況>

| NO. | 指標  | 単位  | 基準値  | R3   | R4   | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                 |
|-----|---|-----|------|------|------|-------|----|----|---------------|--|---------------------|
| 1   | 25~39歳の転入超過数                                    | 人/年 | 145  | -213 | -97  | -148  |    |    | 280人/年        |  | 企画経営部次長(政<br>策推進担当) |
| 2   | 合計特殊出生率   | -   | 1.27 | 1.36 | 1.24 | 1.15  |    |    | 1.41          | 乳幼児医療費助成の拡充を新た<br>に開始したが、出生率は下降傾向<br>であり、国や県の数値を下回る結<br>果となった。     | 企画経営部次長(政<br>策推進担当) |
|     | 「宝塚市は子育てをしやすいまちだ<br>と思う」と回答した市民の割合(市民<br>アンケート) |     | 49.7 | 50.8 | -    | 49.7% |    |    | 基準値以上         | 「育み」プランの目標の一つに「すべての子どもと家庭への支援」を掲げ、施策を推進している。前回を下回ったが、目標は達成することができた | 子ども未来部次長(子ども家庭担当)   |

## <KPIの達成状況>

| 1   | P107達成状パン<br>基本的方向(1) 出産・子育て支                       | 援の対 | <br>E実   |  |  |  |    |    |               |  |                       |
|-----|---|-----|--|--|--|--|----|----|---------------|--|-----------------------|
|     | 具体的施策① 妊娠・出産・-                                      |     |  | ない支援体制   | <br>の強化  |  |    |    |               |  | 担当室                   |
| NO. | KPI   | 単位  | 基準値  | R3   | R4   | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   |                       |
| 1   | 「地域全体で子どもの育成に取り組<br>んでいると思う」と回答した市民の<br>割合(市民アンケート) |     | 29.1   | 32.6   | -  | 30.1   |    |    | 33.5          | 「育み」プランの目標の一つに「家庭や地域の子育て力・教育力の向上」を掲げ施策を推進したが、目標を達成することができなかった。   | 子ども未来部次長<br>(子ども家庭担当) |
| 2   | 乳幼児健診受診率  | %   | 4か月児<br>98.1%<br>10か月児<br>96.4%<br>1歳6か月児<br>97.5%<br>3歳児<br>95.8% | 4か月児<br>96.6<br>10か月児<br>96.4<br>1歳6か月児<br>96.1<br>3歳児<br>95.1 | 4か月児<br>99.5<br>10か月児<br>96.5<br>1歳6か月児<br>98.4<br>3歳児<br>95.0 | 4か月児<br>97.6<br>10か月児<br>96.1<br>1歳6か月児<br>97.7<br>3歳児<br>95.1 |    |    | 98. 0%        | 4か月児健診は1.9ポイントの減、10か月児健診は0.4ポイントの減、1歳6か月児健診は0.7ポイントの減、3歳児健診は0.1ポイントの増となった。受診日程のWEB予約制を開始したことや、離乳食や歯科保健の集団指導を再開したことなど利便性の向上や、一人ひとりの状況に応じた相談支援が受診率の維持につながっている。 | 健康福祉部次長(健康推進担当)       |
|     | 具体的施策② 子育てしやす                                       | い環境 | の整備  |  |  |  |    |    |               |  | 担当室                   |
| NO. | KPI   | 単位  | 基準値  | R3   | R4   | R5   | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 担ヨ至                   |
|     | 「地域全体で子どもの育成に取り組<br>んでいると思う」と回答した市民の<br>割合(市民アンケート) |     | 29.1   | 32.6   | -  | 30.1   |    |    | 33.5          | 「育み」プランの目標の一つに「家庭や地域の子育て力・教育力の向上」を掲げ施策を推進したが、目標を達成することができなかった。   | 子ども未来部次長<br>(子ども家庭担当) |
| 2   | ファミリーサポートセンター会<br>員登録数                              | У   | 1,981  | 2,010  | 2,048  | 2,090  |    |    | 2,000人以上      | 市広報誌や各公共施設へのチラシの設置などにより制度の周知を<br>図った結果、目標を達成することができた。  | 子ども未来部次長<br>(子ども家庭担当) |
| 3   | 社会教育施設における子ども<br>や子育て世代向けの事業の参<br>加者数               |     | 4,817  | 2,166  | 4,706  | 5,145  |    |    | 基準値以上         | コロナ禍前の生活に戻ってきたことや、図書館においては子どもの<br>読書活動推進計画に基づく事業を<br>実施できたことから、基準値を上<br>回る参加者があった。   | 社会教育部次長(社<br>会教育担当)   |

|     | 基本的方向(2) 子育てと仕事の<br>具体的施策(1) 子育てと仕事  |      |         | -環境整備           |        |          |    |    |               |  | 担当室                   |
|-----|--|------|---------|-----------------|--------|----------|----|----|---------------|--|-----------------------|
| NO. |  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 目標値           | 指標の達成状況とその理由   | 12:12                 |
|     | 保育施設の待機児童数   | 人    | 141     | 58              | 0      | 0        | NO | N/ | (R7年度)<br>0   | 保育施設利用の申込率は増加しているものの、就学前児童数が減っていることもあり、これまで拡充してきた認可保育所の受入枠を維持したことで待機児童は0人となった。     | 子ども未来部次長<br>(子ども育成担当) |
| 2   | 放課後児童健全育成事業の低<br>学年の待機児童数  | 人    | 51      | 27              | 96     | 49       |    |    | 0             | 3小学校区において民間放課後児童クラブによる定員拡充をしたものの、校区によっては想定を上回る申し込みがあったため、目標を達成できなかった。              | 子ども未来部次長<br>(子ども育成担当) |
|     | 具体的施策② ワーク・ライフ   | ・バラン | レスの推進   |                 |        |          |    |    |               |  | In wet                |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                   |
|     | 有給休暇を80%以上取得して<br>いる人の割合(市労働実態調<br>査)  | %    | 20.3    | 20.3            | 20.3   | 20.3     |    |    | - (II/ 牛皮)    | 労働実態調査を令和6年度に予<br>定しているため、令和5年度実績<br>は基準値とした。                                      | 産業文化部次長(産<br>業振興担当)   |
| 2   | 「ワーク・ライフ・バランス※がとれている」と回答した市民の割合(市労働実態調査)   | %    | 新規      | _               | _      | -        |    |    | _             | 令和6年度に予定している労働実態調査の結果から記載する。   | 産業文化部次長(産<br>業振興担当)   |
|     | 具体的施策③ 女性の労働班  |      |         |                 |        |          |    |    | 目標値           |  | 担当室                   |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 日保胆<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   |                       |
|     | 「社会における男女の機会均等が<br>図られていると思う」と回答した市民<br>の割合(市民アンケート)                             | %    | 34.6    | 37.8            | -      | 41.2     |    |    | 50.0          | 市民アンケート調査による。前回<br>調査時に比し上昇している。取組<br>が徐々に社会全体に広がってきた<br>ことによるものと推察する。             | 総務部次長(人権平<br>和担当)     |
| 2   | 女性のM字カーブ世代の労<br>働力率  | %    | 64.5    | 64.5            | 71.1   | 71.1     |    |    | _             | 令和2年実施の国勢調査の結果<br>による。前回調査時に比し大幅に<br>上昇している。働き方改革等社会<br>情勢の変化によるものと推察す             | 産業文化部次長(産<br>業振興担当)   |
|     | 基本的方向(3)「生きる力」を育   | み、次  | 代の社会を担  | う子どもへの学         | 校教育の充実 | <u> </u> |    |    |               |  |                       |
|     | 具体的施策① 魅力ある学校  | 園づく  | りのための教  | 育環境の充実          |        |          |    |    |               |  | 担当室                   |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   |                       |
| 1   | 「授業が楽しく、よくわかるようになった」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)                                    | %    | 82.0    | 92.2            | -      | -        |    |    | 85.0          | 次年度に向けて指標の変更を検討する。   | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 2   | 中学生における一人当たりの<br>年間図書貸出冊数  | 冊/年  | 10.8    | 8.7             | 11.1   | 9.7      |    |    | 12.0          | 未達成:新型コロナウイルスが5類となり、休み時間の過ごし方が変わったこともあり、R4年度よりも下がった。各学校で、生徒が読書に取組むための仕掛けづくりが必要である。 | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 3   | 保幼小中合同研修会において「理<br>解できた」と回答した教職員の割合  | %    | 68.0    | 69.5            | 97.0   | 98.2     |    |    | 75.0          | 達成:日々の子どもたちとの関わり方について、参加した教職員ー人ひとりが見直すきっかけとなる<br>有意義な研修であった。                       | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 4   | 就学前研修において「理解できた」<br>と回答した幼稚園教諭・保育士の割<br>合  | %    | 80.0    | 89.0            | 99.5   | 96.1     |    |    | 83.0          | 達成: 就学段階での接続や連携<br>の大切さ、不登校対応への考え<br>方、保護者対応に至るまで幅広く<br>学習する機会となった。                | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
|     | 具体的施策② 子どもの健や  | かな成  | え長のためのき | め細やかな教育         | 育の充実   |          |    |    |               |  | 和水中                   |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                   |
| 1   | 子どもの心を理解する講座で「満足<br>した」と回答した参加者の割合   | %    | 90.0    | コロナ対策の<br>ため未実施 | 91.0   | 90.0     |    |    | 90.0          | 達成:発達特性の理解と関わり方<br>についての講演ということで、参加<br>者のニーズに合っていた。アン<br>ケートでも肯定的な意見が多かっ           | 学校教育部次長(教育支援担当)       |
| 2   | 「宝塚市立の小・中学校の基礎・基本的な学力の定着への取組ができていると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)                        | %    | 8.7     | 9.8             | -      | 11.9     |    |    | 基準値以上         | 達成:基準値は超えているが、できていないという回答も一定数ある。ICTを活用しながら、さらなる基礎学習の定着を図る。                         | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 3   | 「授業で学んだことを他の学習に生かしていると思う」と回答した生徒の割合(全国学力・学習状況調査(中学校))                            | %    | 63.6    | 47.8            | 54.1   | 62.0     |    |    | 基準値以上         | とを活かした発展的な教育活動が 行われてきている成果である。   | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 4   | スクールサポーターの配置率  | %    | 90.6    | 100.0           | 100.0  | 97.1     |    |    | 基準値以上         | 達成:各校でサポーターの確保も<br>進み、年間の活動率も上がり、児<br>童生徒への支援が効果的に行わ<br>れている。                      | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
|     | 具体的施策③ 地域の力を生  | かした  | 学校支援    |                 |        |          |    |    |               |  | 担当室                   |
| NO. | KPI  | 単位   | 基準値     | R3              | R4     | R5       | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 12日王                  |
|     | 「子ども、保護者、地域のニーズに対する教育行政の取組ができていると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)                          | 04   | 7.3     | 8.9             | -      | 12.8     |    |    | 基準値以上         | 達成:市民の評価が得られている。今後もさらに評価が得られるように市民のニーズに沿った取り組みを行っていく。                              | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
|     | 「保護者や地域の人との協働による<br>取組が学校の教育水準の向上に効<br>果があったと思う」と回答した中学<br>校の割合(全国学力・学習状況調<br>査) |      | 83.3    | 58.3            | 66.7   | -        |    |    | 基準値以上         | 次年度に向けて指標の変更を検討する。   | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 3   | 「地域全体で子どもの育成に取り組<br>んでいると思う」と回答した市民の<br>割合(市民アンケート)                              |      | 29.1    | 32.6            | -      | 29.1     |    |    | 30.0          | 未達成:前回調査よりポイントが下がっている。コミュニティ・スクールを活用しながら、地域と学校と保護者のつながりを深めていく必要がある。                | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |
| 4   | 学校支援ボランティアの活動回<br>数  | 回    | 6,882   | 7,606           | 8,079  | 8,521    |    |    | 7,000         | 達成:新型コロナウイルスが落ち着き、各学校での支援ボランティアの活用も増え、児童生徒への支援が充実してきている。                           | 学校教育部次長(学<br>校教育担当)   |

|     | 基本的方向(4) 子育て世代にも              | き選ばれ | <b>れる魅力的な住</b> | 環境の形成 |       |       |    |    |               |  |                         |
|-----|-------------------------------|------|----------------|-------|-------|-------|----|----|---------------|--|-------------------------|
|     | 具体的施策① 魅力ある空間                 | の整備  | Ħ              |       |       |       |    |    |               |  | 担当室                     |
| NO. | KPI                           | 単位   | 基準値            | R3    | R4    | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   |                         |
| 1   | 公園アドプト制度により市民団<br>体などが管理する公園数 | 箇所   | 61             | 64    | 65    | 65    |    |    | 67            | 団体数は増加したものの、活動を縮小する団体もあり、目標値は達成しているが、公園数の増加には至らなかった。                                     | 都市安全部次長(安<br>全まちづくり担当)  |
| 2   | 市民一人当たりの公園面積                  | m    | 5.1            | 5.2   | 5.3   | 5.7   |    |    | 5.5           | 公園数に増減はないが、土地の<br>寄附により都市緑地の面積が増<br>加し、目標を達成した。  | 都市安全部次長(安<br>全まちづくり担当)  |
| 3   | 違反広告物の除却枚数                    | 枚    | 2,216          | 2,004 | 1,448 | 1,517 |    |    | 1,884         | 定期的な除却活動や一斉パトロール等の実施により、掲出自体が減っており、取組の成果が出ている。   | 都市整備部次長(ま<br>ちづくり推進担当)  |
|     | 具体的施策② 良好な住環場                 | 竟の整備 | 備              |       |       |       |    |    |               |  | 10 V/ ch                |
| NO. | KPI                           | 単位   | 基準値            | R3    | R4    | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                     |
| 1   | 市街化区域の面積                      | ha   | 2,605          | 2,605 | 2,605 | 2,605 |    |    | 2,605         | 人口減少、少子・高齢化が進展する中でも、市街地の面積が維持できるよう、持続可能なまちづくりに取組んだ。                                      | 都市整備部次長(ま<br>ちづくり推進担当)  |
| 2   | 住宅の耐震化率                       | %    | 88.4           | 93.1  | 93.4  | 93.7  |    |    | 95.0          | 住宅の新築件数や耐震性の低い<br>住宅の除却件数が以前に比べて<br>減少していることに加え、耐震改<br>修工事等(補助)の実施が目標に<br>達しなかったため、目標値を下 | 都市整備部次長(住<br>まいづくり推進担当) |

## <評価>

## 自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)

## 【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果】

- ・ファミリーサポートセンターの会員数は増加しており、提供会員数も微増を続けており子育て世帯への地域での支援体制の構築は進んでいる。 ・保育施設に対する支援を行い受入枠の確保した結果、待機児童数は令和4年度から引き続き3年連続で0人を継続している。
- ・たからっ子総合相談センター「あのね」において、妊産婦及び0歳から18歳までの子どもとその家族から、子育て、子どもの発達、学校生活に関することなど、様々な相談に応じる子ども総合相談事業を実施した。相談先に迷うような困り感を幅広く受け止め、妊娠・出産・子育てにおける切れ目のない支援につなげることができた。
- ・公園アドプト制度の地域への周知によって、市民団体等が管理する公園は微増傾向にあり、地域でのつながりや活動の広がり、市民と行政の協 働に寄与している。
- ・土地の寄附により都市緑地に編入した区域は、既存の「北雲雀きずきの森緑地」に隣接しており、地域全体の自然環境保全機能やレクリエーション機能の向上が期待できる。
- ・乳幼児等医療費助成事業においては、所得制限の撤廃及び高校生までの助成対象拡大(入院のみ)を実現し、安心して子育てができる環境づく りに努め、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めることができた。

## 【今後の課題と改善策】

子どもを取り巻く社会環境が複雑になっている中で、子どもやその家庭が抱える困り感の内容や程度は多様であるため、個別に応じた切れ目のない相談支援を、学校等の関係機関と連携しながら取り組む必要がある。

保育施設の待機児童対策については、就学前児童数が減少傾向にあるため、今後、ニーズを的確にとらえ適切な定員数を確保するための調整が必要となる。一方、放課後児童クラブにおいては低学年待機児童が増えており、早急な対応が必要である。

公園整備についてはアドプト活動者の高齢化により、今後継続的に活動を行っていくことが困難な状況になりつつある。公園の積極的な利活用や 教育担当)、都市協働による持続可能なまちづくりを実現するため、令和5年度よりパークマネジメント計画の策定に着手し、公園の魅力向上と運営管理の担い手づ 安全部次長(安くりを推進する。

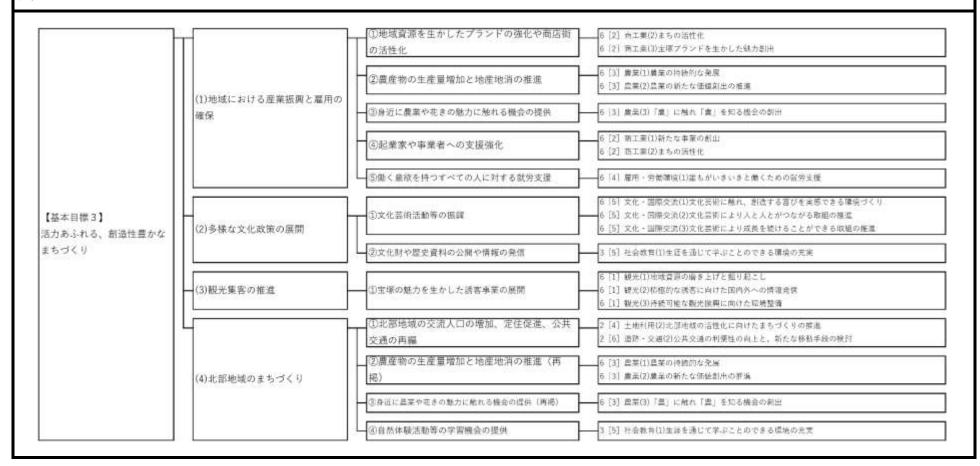
今後は医療費助成などの直接的支援のみならず、子どもを育てる親のキャリア形成や、多様な働き方の実現に向けても施策を検討していく。

# 外部評価

令和6年度外部評価対象外

## 基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

- ◆ イノベーション※を創出する事業者の育成や事業者・支援機関・市民との交流・連携、魅力的な資源の情報発信など、創造性豊かなまちの実現に向けた取組を 推進します。
- ◆ 観光や商工業、農業などの振興による働く場の創出と、ライフスタイルに応じた多様な働き方を推進します。
- ◆ 女性が自らの希望によって多様な働き方を選択でき、輝ける社会の実現に向けた取組を推進します。
- ◆ 誰もがいつでも文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりや、観光や商工業、農業、福祉、教育などの関連分野との連携により、文化芸術を公共的なまちの課題解 決に生かす取組など、文化芸術であふれるまちの実現に向けた取組を推進します。
- ◆ 感染症が蔓(まん)延しても、地域経済の再生に向けた対策を推進するとともに、デジタル技術の導入などにより産業の競争力やリスク対応力の向上を推進します。



#### <指標の達成状況>

|     | 1 / V X 2 / V V V V V                                     |     |        |        |        |        |    |    |               |  |                               |
|-----|---|-----|--------|--------|--------|--------|----|----|---------------|--|-------------------------------|
| NO. | 指標  | 単位  | 基準値    | R3     | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由                             | 担当室                           |
| 1   | 観光消費額   | 百万円 | 87,755 | 61,780 | 78,941 | 未確定    |    |    |               | 未確定。                                     | 産業文化部<br>次長(観光<br>文化振興担<br>当) |
| 2   | 市内従業者数  | Д   | 54,498 | 54,498 | 54,498 | 58,990 |    |    | 63,400        | 加している。止催なが析はできていない<br> が、企業の雇用年齢の引き上げや女性 | 産業文化部                         |
| 3   | 「「宝塚」が持つ魅力の市内外への<br>情報発信ができていると思う」と回答<br>した市民の割合(市民アンケート) |     | 15.4   | 14.4   | -      | 16.3%  |    |    |               | 査より増加し、基準値を上回った。                         | 産業文化部<br>次長(観光<br>文化振興担<br>当) |

## <KPIの達成状況>

| /1/ | PIUD连队认为                        |     |         |         |       |       |    |    |               |              |                         |
|-----|---------------------------------|-----|---------|---------|-------|-------|----|----|---------------|--------------|-------------------------|
|     | 基本的方向(1) 地域における産                | 業振興 | と雇用の確保  |         |       |       |    |    |               |              |                         |
|     | 具体的施策① 地域資源を生                   | かした | ブランドの強化 | や商店街の活性 | 生化    |       |    |    |               |              | 担当室                     |
| NO. | KPI                             | 単位  | 基準値     | R3      | R4    | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由 |                         |
| 1   | 市内で商品・サービス等の提供<br>を受けたいと思った方の割合 | %   | 新規      | 97.0    | 95.0  | 77.3  |    |    | П             |              | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当) |
| 2   | 「モノ・コト・バ宝塚」選定資源数                | 件   | 156     | 175     | 172   | 185   |    |    | -             |              | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当) |
|     | 具体的施策② 農産物の生産                   | 量増加 | こと地産地消の | 推進      |       |       |    |    |               |              | le vices                |
| NO. | KPI                             | 単位  | 基準値     | R3      | R4    | R5    | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由 | 担当室                     |
| 1   | 集落営農組織数                         | 組織  | 5       | 5       | 5     | 5     |    |    | 6             |              | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当) |
| 2   | 有害鳥獣による農作物被害額                   | 千円  | 4,349   | 2,341   | 3,338 | 3,275 |    |    | 3,500         |              | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当) |

|     | 具体的施策③ 身近に農業や                                | ·<br>·花き・ホ    | <br>直木の魅力に触 | はれる機会の提   | <br>供   |           |    |    |                |  |                               |
|-----|--|---------------|-------------|-----------|---------|-----------|----|----|----------------|--|-------------------------------|
| NO. | KPI  | 単位            | 基準値         | R3        | R4      | R5        | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                           |
| 1   | 市民農園利用者数                                     | 人             | 528         | 551       | 587     | 587       |    |    |                | R5.1を最後に新たな開設は無く、閉設もなかったため、利用者数は横ばいである。  | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)       |
| 2   | 「農」に関する講習会等参加者数                              | 人             | 1,377       | 840       | 662     | 844       |    |    | 950            | ゲストティーチャー事業を実施した学校<br>数が昨年度と比べ増加したことにより、<br>参加者数が増加した。   | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)       |
|     | 具体的施策④ 起業家や事業                                | 者への           | )支援強化       |           |         |           |    |    |                |  | 担当室                           |
| NO. | KPI  | 単位            | 基準値         | R3        | R4      | R5        | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | 但曰主                           |
| 1   | 起業した事業者数                                     | 件             | 36          | 26        | 46      | 28        |    |    | _              | 前年度、商工会議所での創業支援等<br>事業による起業者数が大幅増であったが、令和5年度は減少傾向にあった。   | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)       |
| 2   | 1店当たり年間商品販売額                                 | 百万<br>円       | 186         | 186       | 186     | 181       |    |    |                | R3に実施した経済センサス活動調査では、市内従業員数は前回調査時から減少している。正確な分析はできていないが、コロナ禍において、消費行動が実店舗からECサイトでの購入に変化したことなどが影響したと推察される。 | 次長(産業                         |
|     | 具体的施策⑤働く意欲を持つ                                | つすべ           | ての人に対する     | 就労支援      |         |           |    | 1  |                |  | 担当室                           |
| NO. | KPI  | 単位            | 基準値         | R3        | R4      | R5        | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | <i>,</i>                      |
| 1   | 高齢者の労働力率(国勢調査)                               | %             | 18.3        | 18.3      | 23.5    | 23.5      |    |    |                | 実績は、R2に実施した国勢調査の数値であり、前年度の同じ数値となった。<br>高齢者が働きやすい環境の整備やや<br>経済的な理由、社会参加への機運が<br>高まったことが影響したと推察される。        | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)       |
| 2   | 「いきいきと働くことができている」と<br>回答した市民の割合(市労働実態調<br>査) | %             | 新規          | ı         | Ι       | ı         |    |    | _              | 次回の労働実態調査が令和6年度に実<br>施予定のため、数値は空欄とする。  | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)       |
| 3   | 宝塚市シルバー人材センター会<br>員数                         | ≺             | 905         | 898       | 922     | 922       |    |    | 923            | 企業の雇用年齢の引き上げなど働き方の変化により会員数の減少が見込まれたが、会員への声掛け運動や月1回の入会説明会や臨時相談会により会員数増加に向け取り組んだこともあり、会員数は横ばいとなった。         | 産業文化部<br>次長(産業                |
|     | 基本的方向(2) 多様な文化政策                             | の展開           | <b>月</b>    |           |         |           |    |    |                |  |                               |
|     | 具体的施策① 文化芸術活動                                |               | <b>長興</b>   |           |         |           |    |    | 目標値            | Г  | 担当室                           |
| NO. | KPI 「文化芸術活動によく親しんでいる」 と回答した市民の割合(市民アンケート)    | 単位 %          | 基準値<br>24.5 | R3<br>7.6 | R4<br>- | R5<br>8.5 | R6 | R7 | (R7年度)<br>30.0 | 指標の達成状況とその理由<br>前回調査より上回ったものの、目標値には達しなかった。新型コロナウイルス感染拡大を契機として一部の高齢者等が文化芸術活動から引退し、再開に                     | 産業文化部<br>次長(観光<br>文化振興担<br>当) |
| 2   | 協働による文化芸術関連事<br>業数                           | 事業            | 142         | 96        | 138     | 140       |    |    |                | 至っていないと思われる。<br>新型コロナウイルスの影響からの回復<br>により、市民の文化芸術活動が再開され、事業数は増加傾向にある。                                     | 産業文化部次長(観光文化振興担当)             |
| 3   | 市HPの文化芸術関連ページ<br>のアクセス数                      | 件             | 66,809      | 41,054    | 36,015  | 60,612    |    |    | 70,000         | 新型コロナからの回復により文化芸術活動が再開され、後援事業の掲載件数及び各文化イベントの閲覧数が増加した。またSNSと連携して配信することでHP閲覧数の増につながった。                     |                               |
|     | 具体的施策② 文化財や歴史                                | 資料の           | 公開や情報の      | <br>発信    |         |           |    |    |                |  |                               |
| NO. | KPI  | 単位            | 基準値         | R3        | R4      | R5        | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   | 担当室                           |
| 1   | 歴史民俗資料館の入館者数                                 | 人             | 9,862       | 5,591     | 9,599   | 9,533     |    |    | 44.00.44       | 基準値は若干下回ったが、学校での活<br>用が図られたことから、ほぼ昨年度実<br>績を維持した   | 社会教育部<br>次長(社会<br>教育担当)       |
| 2   | 本市の郷土資料や文化財に係<br>る資料展示開催回数(企画展)              | 回             | 13          | 13        | 13      | 23        |    |    | 13             | 古墳発掘調査説明会や鋳造体験講座<br>等を複数回実施し、目標値を大幅に上<br>回り、市内文化財の情報発信につな<br>がった。  | 社会教育部<br>次長(社会<br>教育担当)       |
| 3   | デジタルアーカイブ※の閲覧回<br>数                          |               | 新規          | 87,842    | 236,557 | 222,615   |    |    | 基準値以上          | アーカイブサイトの定着に伴い、閲覧回数は減少した。今後、コンテンツの更新や活用啓発を継続して実施する。  | 社会教育部<br>次長(社会<br>教育担当)       |
|     | 基本的方向(3) 観光集客の推進                             | Ĺ             |             |           |         |           |    |    |                |  |                               |
|     | 具体的施策① 宝塚の魅力を                                | 生かし           | た誘客事業の原     | 展開        |         |           |    |    | D +# /+        |  | 担当室                           |
| NO. | KPI  | 単位            | 基準値         | R3        | R4      | R5        | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度)  | 指標の達成状況とその理由   |                               |
| 1   | 観光入込客数                                       | 千人            | 11,789      | 8,627     | 10,149  | 10,115    |    |    | 11,964         | 施設の休止や改修工事等の影響により観光入込客数は微減、目標は達成できなかった。  | 文化振興担当)                       |
| 2   | 外国人観光客数                                      | 人             | 16,265      | 582       | 2,596   | 9,117     |    |    |                | 国内全体でインバウンド数が増加しており、その影響もあり市内の外国人観光客数も増加した。  | 産業文化部<br>次長(観光<br>文化振興担<br>当) |
| 3   | 新規観光コンテンツ開発数                                 | コン<br>テン<br>ツ | 新規          | 1         | 4       | 4         |    |    | 5              | 前年度に引き続き、4つのコンテンツが<br>採択、実施され、目標を達成した。   | 産業文化部<br>次長(観光<br>文化振興担<br>当) |

|     | 基本的方向(4) 北部地域のまち           | づくり     |          |         |        |        |    |    |               |   |                                |
|-----|----------------------------|---------|----------|---------|--------|--------|----|----|---------------|---|--------------------------------|
|     | 具体的施策① 北部地域の交              | 流人口     | 1の増加、定住化 | 足進、公共交通 | の再編    |        |    |    |               |   | 担当室                            |
| NO. | KPI                        | 単位      | 基準値      | R3      | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  |                                |
| 1   | 北部地域の空き家活用件数               | 件/<br>年 | 0        | 0       | 0      | 1      |    |    | 1             | 移住相談者が希望する物件(日本家屋<br>や広い庭付き家屋)が見つかりにくいも<br>のの、地域での調整により1件の移住<br>が実現した。    | 北部地域振<br>興担当次長                 |
| 2   | 移住相談窓口相談件数                 | 件/<br>年 | 0        | 8       | 20     | 14     |    |    | 30            | WEBサイトによる情報発信、空き家対策セミナー及び空き家視察ツアーに継続して取り組んでいるものの令和5年度の件数は減少した。(累計相談件数42件) | 北部地域振<br>興担当次長                 |
| 3   | 公共交通サービス提供率(人口<br>比)       | %       | 新規       | _       | 55     | 55     |    |    | 基準値以上         | バスダイヤの変更がなかったことから、<br>指標の増減はなかった。   | 都市安全部<br>次長(道路·<br>公共交通担<br>当) |
|     | 具体的施策② 農産物の生産              | 量増加     | こと地産地消の  | 推進(再掲)  |        |        |    |    |               |   | 和火中                            |
| NO. | KPI                        | 単位      | 基準値      | R3      |        | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当室                            |
| 1   | 集落営農組織数                    | 組織      | 5        | 5       | 5      | 5      |    |    | 6             | R12に10組織を目指しており、令和6年度末までに策定する地域計画により、設立する方向性を打ち出した集落に対して、設立に向けた支援を実施していく  | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)        |
| 2   | 有害鳥獣による農作物被害額              | 千円      | 4,349    | 2,341   | 3,338  | 3,275  |    |    | 3,500         | 有害鳥獣防除対策に関する啓発の結果、意識が向上し、被害額の軽減につながっている。                                  | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)        |
|     | 具体的施策③ 身近に農業や              | 花き・林    | 直木の魅力に触  | れる機会の提  | 供(再掲)  |        |    |    |               |   | I Day of the                   |
| NO. | KPI                        | 単位      | 基準値      | R3      | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当室                            |
| 1   | 市民農園利用者数                   | 人       | 528      | 551     | 587    | 587    |    |    | 700           | R5.1を最後に新たな開設は無く、閉設もなかったため、利用者数は横ばいである。                                   | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)        |
| 2   | 「農」に関する講習会等参加者<br>数        | Д       | 1,377    | 840     | 662    | 844    |    |    | 950           | 参加者数が増加した。  | 産業文化部<br>次長(産業<br>振興担当)        |
|     | 具体的施策④ 自然体験活動              | 等の学     | 世習機会の提供  |         |        |        |    | •  | •             |   | 1                              |
| NO. | KPI                        | 単位      | 基準値      | R3      | R4     | R5     | R6 | R7 | 目標値<br>(R7年度) | 指標の達成状況とその理由  | 担当室                            |
| 1   | 宝塚自然の家利用者数                 | 人       | 6,403    | 5,213   | 11,267 | 11,757 |    |    | 10,000        | 者があった。  | 社会教育部<br>次長(社会<br>教育担当)        |
| 2   | 宝塚自然の家における事業プロ<br>グラム等実施回数 |         | 52       | 27      | 68     | 80     |    |    | 65            | 指定管理者の企画により自然に触れ合うイベントの実施回数が増えたことで、<br>利用者数の増につながった。                      | 社会教育部<br>次長(社会<br>教育担当)        |

## <評価>

## 自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)

## 【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果)

・移住相談者が希望する物件(日本家屋や広い庭付き家屋)が見つかりにくいものの、1件の移住が実現した。

・農産物の生産量に影響をもたらす有害鳥獣防除の取組は集落ごとの積極的な取組が重要であるが、その意識醸成が高まっており、国の交付金により 防除策を設置する集落に補助する制度を設けており、実際に被害額の減少に寄与している。また、有害鳥獣防除対策を猟友会に委託し、有害鳥獣や 特定外来生物捕獲により被害縮小に努めている。

・市民農園や農に関する講習会の充実により農業者だけでなく、市民が農に触れ知る機会創出につながっている。

・イベント等の機会を捉え、モノ・コト・バ宝塚の物販を実施するとともに、SNSのフォロワー登録を促すキャンペーンを行い、積極的な情報発信に努めた。**『**地域振興 ・新型コロナからの回復により文化芸術活動が再開され、後援事業の掲載件数及び各文化イベントの閲覧数が増加した。またSNSと連携して配信するこ┃担当次長 とでHP閲覧数の増につながった。

・観光業界も再び動き出したことにより、市内における観光客数や宿泊者数も増加傾向となった。また、観光振興戦略に掲げる「ウェルネス」をキーワー ドに、市内事業者等が主体となり、市が伴走支援を行う官民一体となった観光ビジネスの創出に取り組んだ。令和5年度は、4コンテンツの実証実験を行 い、いずれのコンテンツも既存の地域資源を活用することで新たなコンテンツが創出されている。

・北部地域内とJR武田尾駅を結ぶ路線バスに対する運行支援を行うことで、通勤や通学手段の確保や、外出手段の維持、拡大を図ることができた。ま た、地域内で実施されているボランティア輸送について、公共交通を補完する役割として維持、継続できるよう地域と情報共有を図った。

# 【今後の課題と改善策】

北部地域のまちづくりについては移住イベントの実施等により、移住希望者は増えつつあるものの希望する物件が見つかりにくいため、地域と連携し 行っている移住の取組を周知しながら、空き家の掘り起こしに取り組んでいく必要がある。

また、農業振興については農業者の高齢化や耕作放棄地の拡大により、農地が適切に活用されなくなる懸念がある。地域の担い手に農地を集積・集約 することで、農地の維持を図る必要があり、現在進めている集落ごとの地域計画の策定を支援するとともに集落営農組織設立を促進させるよう取り組ん でいく。

また、コロナ禍で停滞していた文化芸術活動が回復傾向にあり、今後も引き続き各種事業を実施し、誰もが芸術文化に触れられる環境づくりに努めて ┃地域振興 いく必要がある。また事業実施に当たっては、市民や各種団体等との連携を進めていくことが課題となっている。

今後、開発したコンテンツが観光コンテンツとして定着するためには、事業の継続性が必要不可欠であり、事業者の意欲に大きく左右される。また、そ の魅力が市内外、国外へ伝わり、訪れる人が増加するためには、コンテンツをより大きなものに成長させていく必要がある。実証の振り返りを通した改 善点の洗い出しや、広報への協力等、経済的な支援以外の部分で施策を進フォローアップを行うことで、事業者のモチベーション維持するとともに、コン テンツの成熟や定着を図る。

北部地域の公共交通については、人口減少や高齢化の影響や運転手不足など、バス事業者を取り巻く環境の変化などを踏まえ、事業者や地域ととも こ地域の課題に向き合い、今後の公共交通サービスのあり方について新しい手法も見据えて検討する。

モノ・コト・バ宝塚のSNSについてフォロワー増の取組は行ってきたが、発信頻度に課題があるため、今後はコンスタントに発信していく。

部次長 (産業振 興担当)、 (観光文 化振興担 当)、北部

産業文化

産業文化 部次長 (産業振 興担当)、 (観光文 化振興担 当)、北部 担当次長

#### 外部評価

#### 【基本的方向(1)】

- ○取組の結果として以下の説明があった。
- ・重点取組「モノ・コト・バ宝塚による情報発信と充実」について累計185 選定資源があり、令和5 年度は6回のイベント物販と冊子作成、SNS による キャンペーン、BS 番組出演、20 歳のつどいでの配布などを行った。
- ・市内の新規出店にかかる支援制度で、令和5年度は1件補助を行った。
- 〇以下のような課題や意見が付された。
- ・地方創生に寄与するためには雇用と産業の振興が必要でありいかに活性化されたかがわかり、担当部局が行っている事業効果も測れるような KPI の設定ができるよう、今一度見直してはどうか。
- ・新しい事業者の掘り起こしと減りつつある現状の事業者を支えることはいずれも取組が必要であり、現在事業を行っている事業者へのヒアリング を急ぐべきである。
- ・現状のKPIでは女性活躍や若者就労支援の部分が見えない。適切な指標の追加を検討ありたい。

#### 【基本的方向(2)】

- ○取組の結果として以下の説明があった。
- 文化芸術センター、手塚治虫記念館、文化創造館の3館が連携してスタンプラリーを行うなど点ではなく線でつながる事業を行っている。
- 文化政策においても観光施策と絡めながら宝塚歌劇の市民貸切公演など文化芸術に慣れ親しんでいただく取組を行っている。
- ・協働による文化芸術関連事業数はコロナの影響を受け減っていた部分が一定数戻ってきている。一方で、高齢化の影響もありコロナから再スタートを切れていない人もいるという課題がある。
- ・文化芸術関連ページのアクセス数はコロナからの回復により後援事業の掲載件数が増えたため閲覧数も増加した。
- 〇以下のような課題や意見が付された。
- ・文化芸術関連ページのアクセス数が増えたということは評価できるが、どのような人がアクセスしているのか、何を目当てに来ているのかなどニー ズを把握することが必要である。
- ・KPI の「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合について、基準値と実績値の測り方に誤りがあるのではないか。また市民アンケートは指標に直接影響するものではないため、指標の再設定を検討ありたい。
- ・KPI の「協働による文化芸術関連事業数」は事業数ではなく参加者数や誘客数とすべきではないか。

#### 【基本的方向(3)】

- ○取組の結果として以下の説明があった。
- ・観光入込客数については増加傾向にあり、コロナで一時落ち込んでいたが回復している。
- ・観光コンテンツの新規開発について、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して実施、目標値に近い数のコンテンツ開発を行うことができ、翌年度も自主実施するようなコンテンツに成長することができている。
- ・外国人観光客数が増加しており、今後も増える見込みであるためインバウンドに対する取組に注力していく。
- ・情報発信に力を入れ、空港等で発信したことでよりその期間の手塚治虫記念館の来館者数が倍増するなど効果があった。
- 〇以下のような課題や意見が付された。
- ・新規観光コンテンツについて一定の成果がでていることは事業者の機運醸成にもつながり評価できる。一方より的確に効果を表すために数字の 根拠を説明できるよう、データを取るべきである。
- ・外国人観光客の増加が今後も予測されるため、どのようなニーズがあるのかを旅行データ等とともに分析し、西谷地域で民泊を実施するなど市内の滞在時間を延ばせるような取組を検討してはどうか。なお、受け入れのための環境整備も必要である。

## 【基本的方向(4)】

- ○取組の結果として以下の説明があった。
- ・北部地域での移住支援については潜在的空き家の発掘も徐々にできはじめ、移住の取組が徐々に地域に浸透してきた。取り組む際には不動産の売買の話も絡むため、アドバイザーとして不動産業者にも入ってもらい進めている。
- ・ダリア事業についてはデジタル田園都市国家構想交付金も活用して生産支援や加工品開発を行った。
- ・公共交通のあり方検討として地域が主催する西谷公共交通対策会議に市も出向き、意識醸成を作りながら地域に合った交通の形について協議を行っている段階である。
- 〇以下のような課題や意見が付された。
- ・北部地域を今度どのように進めていくかについては大きなグランドデザインを描くことが必要である。そのような計画に基づいて施策を考えていくべきである
- ・公共交通については、カーシェアリングやデジタル活用の観点から、電気自動車の実証実験を行うことなども含め、幅広い視点で検討してはどう か。
- ・移住イベントや空き家活用について、民間事業者のノウハウを活かして事業を推進してはどうか。市内には有力な企業もあるので連携を模索していただきたい。
- ・ダリア生産についてや北部の社会インフラについても民間事業者や大学など産官学連携で品種改良や循環型水システムの導入などICT・IoT の活用についても検討ありたい。

## 【全体について】

- ・地方創生に資する取組については、全体的に効果が測れる指標を再設定いただく必要がある。
- ・地方創生が人口減少抑止という大きな枠組みの議論であることに鑑み、単体の事業の議論ではなく、他部署他機関との連携を視野に入れ、それ ぞれの施策をつなげるなど、視野を大きくもつことも重要である。
- ・国の交付金を活用した事業については、交付金を活用してできたことや地域の変化について、積極的にPR する方向で、可能な限り客観的に説明していく必要がある。